



2026年4月15日掲載

市場からみる停戦と不安定な交渉

現在、米国とイランは2週間の停戦下で交渉を継続しています。ただし、イスラエルを含む関係国の停戦条件の認識の違いもあり、交渉自体は大きな進展が見られず、トランプ政権はホルムズ海峡近辺での「逆封鎖」を主張する一方、交渉継続も示唆しており、不透明な状況が続いています。

このため、市場心理は依然として不安定です。原油価格、日経平均株価、10年国債利回り、いずれも交渉進展を悲観してインフレへの警戒感を強めたり、楽観してリスクを取りなおしたりする動きとなっています。

停戦の破綻から原油価格が高止まりする場合、日米を含む主要国の消費を圧迫する恐れがあります。それ以上に、備蓄原油が底をつくほど長引けば、電力不足や生産の遅れなどが経済成長の足を引く恐れが強まり、市場心理を悪化させるでしょう。

ただし、米国はある程度目的を達したと主張して、紛争を長引かせる意図はなさそうです。

現時点でのメイン・シナリオは、「緊張状態は続くものの、大幅な紛争悪化は回避され長期停戦に向かう」という見方です。今後については、停戦期間中の交渉次第で情勢が好転する余地がありますが、当面は不透明感が残り、市場は神経質な展開が続くでしょう。

引き続き焦点は、交渉が進んでホルムズ海峡のタンカー通過が正常化することです。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》